

OCT アンギオグラフィコアアトラス ケースで学ぶ読影のポイント

吉村長久 編 加登本 伸 編集協力

今、眼底画像診断における最もホットなトピックは、紛れもなく、OCT アンギオグラフィである。つい先日までは、OCT アンギオグラフィは研究レベルの技術であり、臨床でのルチンな応用には程遠いように思われていたが、昨今の撮影スピードや撮影範囲の改良、画質解像度の著しい向上などにより、蛍光眼底造影に代わる、もしくはかなりの分野では、蛍光眼底造影と異なる情報を得ることができ、造影検査を凌駕する診断機器となっている。しかも非侵襲である。これからも OCT アンギオグラフィが画像診断の最もホットなトピックであり続けることは間違いない。

このようなニーズを背景に、今回、満を持して出版されたのが、吉村長久先生（北野病院病院長）編集の本書『OCT アンギオグラフィコアアトラス』である。手に取って表紙を見ただけで、選び抜かれた表紙を飾る画像が美しく、画像診断に卓越したセンスを有する吉村先生ならではのこだわりを感じさせる。序で吉村先生自身が、OCT アンギオグラフィはまだ新しい診断機器であり、この時点でアトラスを出版することが良いか考えたが、名著『加齢黄斑変性 第2版』（医学書院、2016）を出されたときに OCT アンギオグラフィの所見を盛り込めなかったことが、本書を執筆された動機であると述べられている。なるほど、本書は単独で素晴らしい名著であるが、さらに『加齢黄斑変性 第2版』とともに読むと、吉村先生の一貫した画像に対する美学を痛感していただけるのではないかと思います。

本書では、最初に OCT アンギオグラフィの基本として、原理やアーチファクトについてわかりやすく解説されている。基本を理解し、正常眼底のアンギオグラフィ所見が解説された後、第3章からはいよいよさまざまな疾患のアンギオグラフィ所見へと進む。

そこでは、京大に蓄積された豊富な症例を背景に、実際の症例のアンギオ画像が、眼底写真や蛍光眼底造

影、眼底自発蛍光、OCT 画像などの multimodal imaging の画像とともに提示されている。実際の症例で、OCT アンギオグラフィの所見がどのように見られるのか、症例を経験することが理解を深める最善の方法であると、吉村先生がおっしゃっているように思われる。疾患も AMD から、pachychoroid neovascuopathy や MacTel に至るまで、新しい疾患概念が全て網羅されている。また、黄斑疾患だけでなく、第4章では緑内障における OCT アンギオ所見が示されている。特に、放射状乳頭周囲毛細血管や篩状板レベルでの血管の脱落と視野障害が如何に関連しているかが示されている。第6章の網膜血管閉塞性疾患では、まるで血管鋳型標本を見ているかのごとく、虚血型 RVO に見られた乳頭部新生血管の美しい網目状構造に目を引きつけられる。さらに、陳旧期 CRVO で見られる乳頭上の側副路のうねうねとぐるを巻いている様子を一本一本観察できることに感動を覚える。

眼底画像診断に卓越したセンスを持たれ、網膜疾患だけでなく緑内障をはじめとする視神経疾患に長い伝統を有する京大ならではの素晴らしい書である。普段の臨床でこれだけのさまざまな疾患や貴重な画像を見られるチャンスはなかなかない。ぜひ本書を通じて、さまざまな症例をバーチャル体験することにより、この最先端の画像診断技術を自分のものにしていただきたい。症例を積み重ねることこそが良き臨床医になる最も確実な道である、しかしそのために緻密かつ正確な観察眼を持っていくてはならない。そのメッセージを吉村先生が教えてくれる書である。

東京医科歯科大教授・眼科学
大野京子

B5・頁 168 2017 年 04 月

定価：本体 9,000 円＋税

[ISBN978-4-260-03005-2] 医学書院刊